

令和5年度 第1回通常総会 議事録

1. 日 時 令和5年6月6日(火) 13時00分～16時00分
2. 場 所 アルカディア市ヶ谷
3. 会員総数 115名
4. 出席者数 115名
(出席者委任 32名 議長委任 18名を含む。)
5. 出席した理事
会 長 井上 圭三 (議長兼議事録作成者)
副 会 長 楠 文代 中村 明弘
常務理事 田中 芳夫 越前 宏俊
 浜岡 純治 加留部 善晴
理 事 杉林 堅次 亀井 美和子
 神野 透人 北川 裕之
 篠塚 和正
6. 出席した監事 富田 基郎 市川 厚
7. 出席した参与 乾 賢一 本間 浩

8. 議事の経過の要領及びその結果

定款第14条の規定により井上会長が議長に就任し、会員現在数115名に対し、本日の出席会員が115名となり、定款第17条に定める定足数を満たしており、本総会が有効に成立していることが宣言された。

また、議事録署名人として出席理事から中村副会長、加留部常務理事を指名し、事務報告の後、議案の審議に入った。

(1) 前回議事録の確認について

前回議事録(令和4年度第2回通常総会:令和4年11月29日開催)について、これを全会一致で承認した。

(2) 理事の退任に伴う後任理事の取扱いについて

「資料3」のとおり元木和幸理事(5月10日付、昭和薬科大学理事長を退任)及び奥直人理事(会長指名理事:3月31日付帝京大学薬学部長を退任)の2名の理事が退任したことに伴い、後任理事の取扱いについて協議した。

井上会長から、検討にあたり令和4年度に実施した理事の改選に伴う選挙結果を参考にしたところ、次の理事候補者となる対象者の得票数が極めて少なかったこと、また、会長指名理事についても、現時点で指名する特段の理由がないものと判断し、後任理事2名の補充人事は行わない旨説明があった。

またこれに伴い、理事の現在数は17名から15名となるが、定款第19条に

定める理事定数 12 名以上 17 名の範囲内に収まっていることから、問題がないことも併せて説明があった。

以上の理由により、後任理事の補充は行わないものとして提案され、協議の結果、これを全会一致で承認した。

(3) 令和 4 年度事業報告（案）について

小池事務局長から、「資料 4」に基づき令和 4 年度事業報告書（案）について説明があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。

(4) 令和 4 年度決算（案）及び監査報告について

小池事務局長から、「資料 5」に基づき令和 4 年度収支計算書(案)等関係書類の説明及び富田監事から監事監査結果の報告があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。

(5) 第 1 回教育研究問題検討委員会の報告について

井上会長（本検討委員会委員長）から、4 月 10 日（月）に開催された本検討委員会について「資料 6」に基づき以下のとおり報告があった。

- ① これまで本委員会は、理事の先生方を中心に委員会を構成していたが、今回は、理事の先生から委員の推薦を受け、若手の教員を中心に構成した。
- ② 今回は特にテーマを設定せず、自由に発言する形で行い、特に今回のコアカリ改訂に関し、改訂の趣旨を生かすにはどうすればよいのか等、意見交換を行った。次回以降の会議では、薬剤師国家試験とコアカリの関連について検討することとした。

(6) 学生の入学定員及び入学者数調の結果について

小池事務局長から、「資料 7」に基づき令和 5 年度私立薬科大学（薬学部）入学定員及び入学者数調の結果報告があった。

また、井上会長から、本年度より「入学定員遵守の申合せ」を廃止したことの確認及び入学定員を充足しない大学が増加していることへの懸念が示された。

(7) 令和 4 年度私立薬科大学(薬学部)実務実習実態調査の調査結果について

小池事務局長から、「資料 8」に基づき私立 57 大学を対象に実施した令和 4 年度薬学実務実習の実態調査（病院、薬局における学生の受け入れ割合、実習経費の金額別、学生数等）の報告があった。

(8) 薬学教育協議会について

本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、「資料9」に基づき以下の報告があった。

- ① 「薬学教育モデル・コア・カリキュラムに関するシンポジウム」について
令和5年4月12日（水）13:00～16:50に実施し、関係者350名の参加者があった。また、既にオンデマンド配信も実施しているので、多くの方に視聴して欲しいとの要請があった。
- ② 認定実務実習指導薬剤師の認定申請・審査状況について
令和5年4月21日現在の審査終了が3,737件あり、認定3,608件、認定不可129件であった。
- ③ 第46回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会議事録について
 - ・令和4年度第Ⅲ期実務実習報告の中で、ライン交換（SNS）について情報交換があり、ルール作りは難しいのではないかとの意見が出されたが、薬学教育協議会で議論して整理することとなった。
 - ・日本薬剤師研修センターから、講習会ビデオのe-ラーニング配信を2023年3月31日で終了したいとの申し入れがあったため、認定実務実習指導薬剤師養成研修委員会において協議し、地区調整機構及び薬学教育協議会で更新講習会を開催し、対応することとした。
また、現在の講習会の内容を再編成する準備を進めている。
- ④ 第47回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会議事録について
 - ・令和4年度第Ⅳ期実務実習報告の中で、WEBシステムについては午前1時以降も入力できるようにして欲しいこと、また、メールに複数文書が添付できるようシステムに関して要望があり、WEBシステム検討委員会で検討することとした。
 - ・本年度から、薬学教育協議会内の実務実習に関連する委員会の体制を見直し、「病院・薬局実務実習推進委員会」を設置し、実務実習ガイドラインの改訂、見直しを行うこととした。
 - ・現行のガイドラインに基づく実務実習の課題への対応について
ハラスメント等の対応については、報告だけでなく、その対応についても合わせて報告するよう各地区へ依頼した。また、関係団体と連携し、ハラスメント防止、個人情報の取り扱いにかかる指針等を改めて検討し、周知するとともにハラスメント防止に関する研修を実施する。また、実習の枠組み、実施時期について、地区調整機構が各地区の状況に合わせて協議を行い、ガイドラインに記載された原則を順守したうえで、より効果的な実習方法、枠組みに提案があれば検討し、地区

内で合意を得られた場合は、中央調整機構委員会での協議を経て対応する。

なお、「実務実習ガイドラインの改訂」については、WGを立ち上げ、9月若しくは10月に改訂版を公表することを目途に作業を進めているが、枠組みは、現行の「病院11週・薬局11週」の基本を踏襲することで検討している等の報告があった。

(9) 薬学教育第三者評価について

西島薬学教育評価機構理事長から、「資料10」に基づき、本年4月15日に開催した「6年制薬学教育の内部質保証に関するワークショップ」について、実施概要、参加者に対するアンケートの評価結果等について報告があった。

(10) 日本薬学会の報告について

中村副会長（日本薬学会薬学教育委員会委員長）から、「資料11」に基づき日本薬学会薬学教育委員会2023年度事業計画について報告があった。

① 「大学院進学促進事業の企画・開催」として

「第1回シン・全国学生ワークショップ」の開催

タイトル（案）：薬学の未来を担う学生のためのキャリアデザイン

ワークショップ～博士を取得した先輩と一緒に薬学の未来を考えよう～

開催日：2023年8月11日（金）

対象者：全国薬系大学・薬学部学生（6年制・4年制ともに参加可）

② 「博士取得者及び大学院生を対象としたキャリアデザインワークショップ」の開催

開催日：2023年11月12日（日）

対象者：大学院生及び博士取得者

9. その他

(1) 第23回 JAPAN ドラッグストアショー（一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会主催）の後援名義申請について

井上会長から、「参考資料」に基づき令和5年8月18日（金）～20日（日）まで東京ビックサイトで開催される「第23回 JAPAN ドラッグストアショー」について、一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会会長から本協会に対し後援名義の申請があった旨説明があり、協議の結果これを承認した。

10. 薬学教育の諸課題について

(1) 文部科学省高等教育局医学教育課 大久保薬学教育専門官から、以下のとおり説明があった。

- 新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた薬学教育
- 6年制課程における薬学部教育の質保証について
- 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂について
- 令和5年度薬学教育指導者のためのワークショップについて
対 象：学長、学部長等（大学において、薬学教育・教育課程編成に指導的立場にある者）
日 時：令和5年8月4日（金）
場 所：オンライン開催
テーマ：「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」に基づくカリキュラム実施に向けた課題と対応（仮）
- 令和5年度予算について
 - ・地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取り組み支援
事業実施期間：令和5年～令和7年
選定件数：4大学×800万円
 - ・薬学教育における質保証に関する調査研究
事業期間：最大3年間（令和4年度～6年度）
選定件数：1件×700万円
- 各種要請等について
 - ・薬害防止に関する教育の充実について
 - ・B型肝炎に関する教育の充実等について
 - ・死因究明等推進計画の概要等について
 - ・アレルギー疾患に関する教育の充実について
 - ・アルコール依存症に関する教育について
 - ・「慢性の痛み」に関する教育の充実について
 - ・男女共同参画基本計画について

(2) 厚生労働省医薬・生活衛生局 太田薬事企画官から、以下のとおり説明があった。

- 薬剤師の確保について
- 電子処方箋について
- 医薬品の販売制度に関する検討会について
- 薬系技官の採用について
- 令和5年度予算の概要について

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、16時00分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事（指名された議事録署名人）がこれに署名捺印する。

令和 5 年 6 月 19 日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議長兼議事録作成者 井 上 圭 三
(押印済)

出席理事（議事録署名人） 中 村 明 弘
(押印済)

出席理事（議事録署名人） 加留部 善 晴
(押印済)